



果樹林産センター 信方浩志郎

## 品種更新・改植

30年生を越えた老齡樹や高接後15年経過した樹は生産力が低下しているため、改植を進めましょう。苗木は乾燥に弱いいため、根を乾かさないように注意し、植え付け後は充分なかん水を行いましょ。

## 剪定

近年、同じ園地内でも樹毎で着果のバラツキが増えているので、状態に応じた剪定を行い、作業性の向上や日照の確保をしましょう。剪定をすることで、薬剤散布もしやすくなります。園地や樹毎に優先順位をつけ、先に表年が予想される樹を効率的に剪定します。表年の樹は「早く強く」、裏年の樹には「遅く弱く」を基本にして効率良く作業を進めましょう。

## 春肥

春肥は、新芽の充実や幼果の肥大に影響を与えます。通常は3月中旬が施肥の適期となります。時期が早いと根の養分吸収率が低いため流れてしまい、時期が遅いと新芽の充実や幼果の発育に養分が行き渡らず、樹勢の低下を招きます。また、施肥後の吸収効率を高めるために、春草は除草して中耕を行ってください。

### 〈3月中旬〉

- ・ 早生 柑配4号 80 kg / 10 a
- ・ 青島 柑配4号 100 kg / 10 a

## 病害虫防除

近年、台風の襲来によりかいよう病の発生が多く見られます。発病した園や発病しやすい品種では、なるべく、効果の最も高い発芽前に防除を行いましょう。また、1月に機械油を散布していない園地には、ICボルドー66Dの散布と14日程度間隔を空けて散布してください。

- ・ かいよう病
  - ICボルドー66D 60倍
  - ミカンハダニ、カイガラムシ類
- マシン油乳剤(97%) 60倍